幼児教育を支える水道水の安全性

座談会

ことの大切さを語り合う

心強い理解者の存在…東岡
水の良し悪しは安全性…石井
おいしい水へ組織強化…加藤

水道事業に対するエンドユーザーのニーズの多様化、高度化が高まってきていることは論を待たないが、その一方で水道が現に果たしている役割に対する市民の認識不足に起因する誤解も根強いものがある。それが心ある水道関係者を悩ます種になっているわけだが、一般市民全てがそうした誤解に囚われているわけではない。水道の役割自体も供給先によってその重み、ニュアンスが変わってくるが、幼稚園という幼児教育の現場では何よりも安全性が求められる。ここでは、水道に対する正しい認識に基づいて幼児教育に尽力している浦安市の幼稚園の園長先生と、東京都水道局の東岡局長、千葉県水道局の加藤技監とで語り合っていただいた。

石井氏

東岡氏

―今日はお忙しいところ、座談会に出席いただき、有難うございます。この座談会は、石井園長先生の幼稚園における水に関する教育方針を知人を通じて聞き知った東岡局長から弊紙記者に伝わり、特に幼稚園の園児の保護者に宛てたお知らせ（注＝別掲）の内容が、現在日本の水道界がまさに取り組んでいることであり、ぜひ水道界に広く紹介したいというコンセプトに基づいて実現したものです。また、加藤技監は、先生の幼稚園の所在地が千葉県内ということで給水区域を所管する水道事業体でおいしい水づくりに向けてご努力をされている立場から出席いただきました。

はじめに、東岡局長から石井先生の教育方針のどのような点に好感を持たれたのかご発言下さい。

東岡局長　知人を通じて石井先生が幼稚園の園児の保護者に宛てたお知らせを読む機会に恵まれたのがそもそものきっかけです。そのお知らせには、幼稚園で園児に最も適した飲料水は水道水であり、水筒はなるべく持たせることのないように呼びかけており、そのために園で毎日残留塩素の測定も行っていることを紹介しています。東京都水道局では、安全でおいしい水を供給していることを積極的にPRしているのにもかかわらず、一般の方々にはなかなかご理解いただけないもどかしさを感じていましたので、このお知らせを目にした時は感心を通り越して深く感動しました。局では、小学校を対象に水道キャラバンなどのPR活動を展開していますが、幼稚園児やその保護者に対して訴えていくことを保護者の方にも分かっていただいて共に手を携えてやっていきたいと考えています。このお知らせは、毎年5月に配布します。それは入園直後は緊張していた親子もこの時期になると園の生活にも馴れてきて、「水」に対する関心も高まってきます。すると、水道水にはトイレにたる水にキ解う

石井園長　私としては、ごく当たり前の気持ち、子供達のことを思って書いた文章です。この時期の子供達は、生きる力の基礎づくりをしている、いわば土の中の根っこに栄養を与えるような、とても大切な時期に当たります。私は、将来逞しくしなやかに育ってほしいと願って仕事に臨んでいます。この気持ち方々にぜひ理解してほしいと思ってお知らせのお手紙を書きました。

―水筒を持たせなくてもよいということについてはどのように親御さんに説明されていますか？

石井　やはり、細菌の問題です。沸騰した水はすぐに飲めば良いのですが、時間が経つと細菌が繁殖してしまいます。

東岡　水道の長所というか存在意義を正しく理解されていますね。カルキ臭を飛ばすことは塩素によって担保されている水道水の安全性を放棄することになります。

加藤　お客さまを対象に当局が昨年度に実施したアンケートでも蛇口から直接水を飲む人が25%にとどまっていたのに対し、浄水器を使用されている方が56%、ペットボトル等の飲料水を飲む人は32%と芳しくない内容でした。しかし、その一方で、水道水が信頼できると回答された方は58%に達しており、いささか安心した次第です。水道水のおいしさという点ではまだまだ理解を得られていないものの塩素によって支えられた水道水の安全性はかなりの人が分かってきているのかもしれません。

―さて、ここで日の出幼稚園に給水されている水について簡単に紹介して下さい。

加藤　千葉県の水道は県内に水源が殆どないために70%以上の水源を利根川や江戸川などに頼らざるを得ない状況となっています。日の出幼稚園のある浦安市には印西市にある木下（きおろし）から利根川の水を取水して浄水処理した水と江戸川の水を水源とする北千葉広域水道企業団から供給を受けている水とを市川市にある妙典給水場を経由し、そこからポンプで給水しています。千葉県水道局は昭和55年に日本で初めてオゾン・活性炭処理の高度浄水処理を導入し、その後も順次各浄水場への導入を進めており、現在、木下で取水している浄水場にも高度浄水処理を導入するための実験を行っています。

石井　いろいろな方が私達には見えない所で大変な努力をされているおかげで私達の幼稚園まで安全でおいしい水が送られていることがよく分かり、改めて感謝致します。

―石井先生からはエールの言葉が出ていますが、先程も話に出ましたように大半の市民は水道事業体の取り組みに対する理解はまだまだというのが実情です。ここで、水道事業体の市民PRに向けた近年の取り組みをご紹介下さい。

東岡　東京都ではじめに高度浄水処理を導入したのは金町浄水場でした。水源の江戸川の取水地点上流に流れ込んでいる坂川から流入する生活雑排水の影響で昭和40年代から水質汚濁が著しく進行し、水道水もかび臭による苦情が目立つようになりました。このために平成4年に高度浄水施設を稼動させ、その後も利根川系の水を水源とする各浄水場に高度浄水施設の整備を進めてきた結果、今ではおいしい水になっているのですが、ひとたび人々の心に定着してしまったイメージをなかなか払拭できないでいるのが現状です。さらには、危ないとか健康に良くないといって水道水のイメージを悪くすることでビジネスにつなげるような動きもありました。

先程、先生がおっしゃったように日本の水道は世界有数の技術力ゆえにいつでもどこでも蛇口から安全でおいしい水を飲むことができます。これは、日本が世界に誇るべき文化であり、この文化を守りたいという思いで、当局では平成16年に「安全でおいしい水プロジェクト」を立ち上げ、よりおいしくするための取り組みを強化し、また、そのような取り組みの意義を理解してもらうために努力しています。平成18年からは小学4年生をターゲットに水道キャラバンというプロの俳優さん達による水道の授業を始めました。今年で3年目となるこの水道キャラバンはお蔭様で希望校が急増し、大ブレイクといった状況です。

加藤　千葉県でも水道水から臭いが出て苦情を受けたことで高度浄水処理を導入した経緯があります。そして、高度浄水処理した水を給水するようになってもおいしくないというイメージを払拭できないのもまた同様です。このため、お客↖

出席者

東京都公営企業管理者・水道局長　東岡創示氏
千葉県水道局技術部技監　加藤幸一氏
浦安市立日の出幼稚園園長　石井ひろ子氏

司会＝本紙副編集長・福島真明